

評価コメント

- ・リハビリも重要であるが、患者の中にも喫煙者が多いのに驚いた。禁煙指導を積極的に行うべきでなかろうか。
- ・公害認定患者の呼吸機能は維持されていたという結果であるが、低下率は一般の加齢による低下率と同等であるが、当初の値は下がっているので、症状が強くなる傾向は当然あるのではないかと思われる。
- ・公害認定患者にも呼吸リハビリテーションプログラムが有用であるという結果を示されたのは評価できる。
- ・各種指導の評価により、呼吸リハビリテーションの有用性は示された。個々の患者の状態に応じたプログラムを指導体制も含めて今後どのように実践し、現場で使いやすい指導で評価するかなど、具体的展開の仕方が課題である。
- ・公害認定患者を対照として取り上げたことを特に評価する。一般に喘息患者に対して呼吸リハビリテーションの適応があるのか、検討の必要がある。
- ・公害患者における呼吸リハビリテーションの効果を検証した。公害の侵襲度と喫煙の影響の大きさの判別が困難な肺機能低下の成因に対する検証が必要。
- ・以前から喘息患者の呼吸機能が低下するか否かは議論の多いところであったが、本研究では呼吸機能の低下は加齢による平均的範囲内であったということで、一つの貴重なデータである。
- ・公害認定患者とCOPDの患者の呼吸機能を比較した場合、COPDの患者の方が遙かに低下しており、両者を比較するのであれば、呼吸機能に関して症例のマッチングを行うべきである。
- ・公害認定患者として一括して扱っているが、公害認定患者には喘息やCOPDの患者、あるいはその両者を合併している患者も含まれているわけで、病態から考えて公害認定患者を疾患別に分けて比較した方がよいのではなかったらうか。
- ・COPDと公害認定患者の病理学的相違を明らかにすべきである。両者の間の呼吸リハに相違はあるが、心理的バックグラウンドの検討が必要である。